

## 統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 20年 11月 20日

氏名： 石渡 明

所属(職名)： 東北大学東北アジア研究センター(教授)

会議名	SSEP (科学立案・評価パネル)
期間(移動を含む)	平成 20年 11月 8日 ~ 平成 20年 11月 15日
用務地(国・都市)	アメリカ合衆国・サンフランシスコ
目的	IODP に新たに提出された提案書の評価、及び既に SPC・OTF にある提案書の 5 段階区分(制度変更以前の 5 段階区分未実施分について)

### 会議内容及び報告事項

会議に先立ち 9 日(日)に金門橋北方地域のフランシスカン層群及びサンアンドレアス断層の地質・地形見学旅行を行った。今回会議の世話役で SSEP メンバーの Ivano Aiello 氏(加州州立大)と共同議長の Barbara John 女史(ワイオミング大)がリーダーを務め、特別講師として元米国地質学会会長 Eldridge Moores 氏(加大デービス校)夫妻が来られた。参加者は 20 人程度で、天候に恵まれ有意義な見学旅行だったが、無断欠席者がいたのは残念だった。

10 日午前 8:30 から会議を始め、開会宣言、会議場などの説明、委員(出席 33 名、欠席 2 名)及び陪席者(各組織・委員会代表、出席 17 名、欠席 2 名)の自己紹介、議程表の承認、前回議事録の承認、議事次第の説明、各委員会(SPC、SSP、EDP、CDEX、USIO、ESO)及び IODP-MI 報告があり、B. John 女史が議長を務めた。今回は、従来と異なり、既に SPC や OTF にある提案書のうち、5 段階区分(five star grouping)が実施されていない提案書全部(ただし掘削済みと掘削確定のものを除く)について改めて 5 段階区分を行うよう、SPC から SSEP に要求があり、この経緯と具体的な区分の方法について SPC 議長の Jim Mori 氏から詳しい説明があり、それに対してかなり長時間の質疑があった。また、2009 年 4 月から会社等が出資する掘削提案書(CPP)の受付が始まること、その評価プロセスは通常の提案書と異なることについて説明があったが、今回の提案書にはこれに該当するものはないとのことであった。一方、EDP からは、SSEP から EDP に審議を付託する場合、審議すべき問題点について具体的なコメントを評価書に記入するようとの意見があった。なお、今回の会場はサンフランシスコ市役所近くのマーケット通りに面する Hotel Whitcomb の 1 階にある Union Square Room であり(分科会は 2 階の小部屋も用いた)、広さは十分だったが、地震対策のためか太い角柱が部屋の中に何本もあり、見通しがよくなかった。毎朝 8:00 からこの部屋で参加者に朝食(コーヒー・紅茶とマフィン)が供された。

10 日午後は、まず John から 3 つの分科会への提案書の割り振り、評価基準、利益相反、評価報告書の執筆と提出などに関する説明があり、その後「固体地球」分科会(議長は John、提案書 12 本)、「環境」分科会(議長は石渡、提案書 12 本)、「深部生物圏」分科会(議長は Paliike、提案書 10 本)の 3 つに分かれて評価・区分を行った。今回は処理すべき提案書が多いため、ウォッチドッグの数は提案書 1 本当たり 4 人としたが、2 本の主任ウォッチドッグを務めた人も相当数おり、1 人当たりの担当提案書数は 4~5 本であった。また、2 つの分科会で 1 人のウォッチドッグが担当する提案書の審議が重ならないように予め提案書審議の順番を設定して全員にメールで配布したが、分科会によって審議の進行速度が異なるため、多少重なる場合もあった。夕刻に会場から徒歩 5 分の Saluna Café で Ocean Leadership 主催の歓迎晩餐会(無料)が催された。

11 日は終日分科会を行い、夕刻までに全ての分科会で評価・区分を終了した。この日の夕刻には、会場から徒歩 5 分の Café della Stella で希望者参加のイタリア料理の晩餐会(有料)があった(I. Aiello 氏が世話役)。

12 日は終日全体会議を行い、34 本全ての評価・区分を確定した。結果は、まず新規/再提出

の 19 本については、外部評価に進むフル提案書 3 本、修正後再提出させるフル提案書 7 本、フル提案書として提出させるプレ提案書 1 本、修正後再提出させるプレ提案書 1 本、却下 (Deactivate)する提案書がフル 1 本とプレ 2 本、SPC に上程する APL 提案書 3 本、修正後再提出させる APL 提案書 1 本となった。これらの他に外部評価済みのフル提案 4 本をいずれも SPC に上程し、それらの 5 段階区分の内訳は 5 が 1 本、4 が 2 本、3 が 1 本となった。また、現在 SPC にある提案書のうち 5 段階区分が未実施だったもの 8 本については、4 が 3 本、3 が 1 本、なしが 4 本となった。そして、現在 OTF にある提案書のうち 5 段階区分を要求された 3 本については、4 が 2 本、3 が 1 本となった。

13 日は予定より早く 8:15 から会議を始め、まず SPC に上程する APL 提案書のうち 1 本の技術的な問題について EDP に検討を依頼するための文案を確定した。続いて次回 2009 年 5 月の SSEP 会議の日程を 22 日～25 日、場所をオランダの Utrecht と決定し、ユトレヒト大学の H. Brinkhuis 氏から会場などの紹介があった。次に、今回で退任する SSEP 共同議長の Barbara John 女史の後任の選挙が行われ、投票の結果、オレゴン州立大学の Marta Torres 女史を賛成 31 票、無効 1 票で選出した。その後、今回で退任する 5 人の SSEP メンバーに対して歓送のプレゼンテーションが行われた。B. John 女史(米国)を T. Elliott 氏が、安間了氏(日本)を石渡明が、B. Ménez 女史(フランス)を H. Pälke 氏が、竹内美緒女史(日本)を稲垣史生氏が、田村芳彦氏(日本)を木村純一氏が、それぞれ楽しく紹介して感謝の言葉を述べた。最後に B. John 共同議長が退任の挨拶と閉会の辞を述べ、参加したメンバーの数よりも多い 34 編の提案書を評価・区分したこの仕事量の多い会議が閉幕した(12:00 頃)。各主任ウォッチドッグはこの日のうちに評価報告書を IODP-MI の担当者に提出した。

備考	
----	--

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等  
上記の文中にも書いたが、今回の会場は、広さは十分だったものの、部屋の中に太い柱が多くて非常に見通しが悪かった。また、マイク・スピーカーなどの設備もなかった。もう少し使い勝手のよい部屋を探してほしい。